

花王が挑むサステイナブルなサプライチェーン

花王のESG戦略

当社は、1887年の創業以来、生活者起点を基本に企業活動を展開してきた。生活者視点でモノづくりを推進することは、当社の企業理念の礎である。絶えざる革新への挑戦、細部にまで配慮した製品の開発、そして一歩進んだ提案や取り組み——それら全てが、生活者のニーズに応えることを目指している。そして、当社のESG戦略である「Kirei Lifestyle Plan」(図表1)は、生活者起点のもと、世界中の人々の「持続可能なライフスタイルを送りたい」という思いや行動に応えることを目指して策定された。こうした、人々が望む暮らしを「Kirei Lifestyle」と定義し、こころ豊かに暮らすことができるよう事業のあらゆる分野で革新を進め、さらなる社会への貢献を目指している。

花王SSCM部門ロジスティクスセンター長

山下太

やました ふとし



フィジカルインターネット^(注1) 実現に向けて

この数年の物流を取り巻く環境変化には、著しいものがある。2024年4月からのトラックドライバーへの時間外労働時間の上限規制適用や、トラックドライバーの不足によって、「モノが運ばなくなる」可能性が懸念されている。また、物販系EC市場の拡大により多品種小ロット輸送も増加しており、われわれ荷主は、「物流事業者を選ばれる企業」への変革を急ぎ進めることを求められている。

このまま物流における需要が供給を大きく上回り、何も対策が行われない場合、経済産業省の調べでは2030年に最大10兆円の経済損失になると報告されている^(注2)。こうした物流環境の変化を踏まえ、当社は、労働集約型の現場から装置産業化へと、DXによる変革を

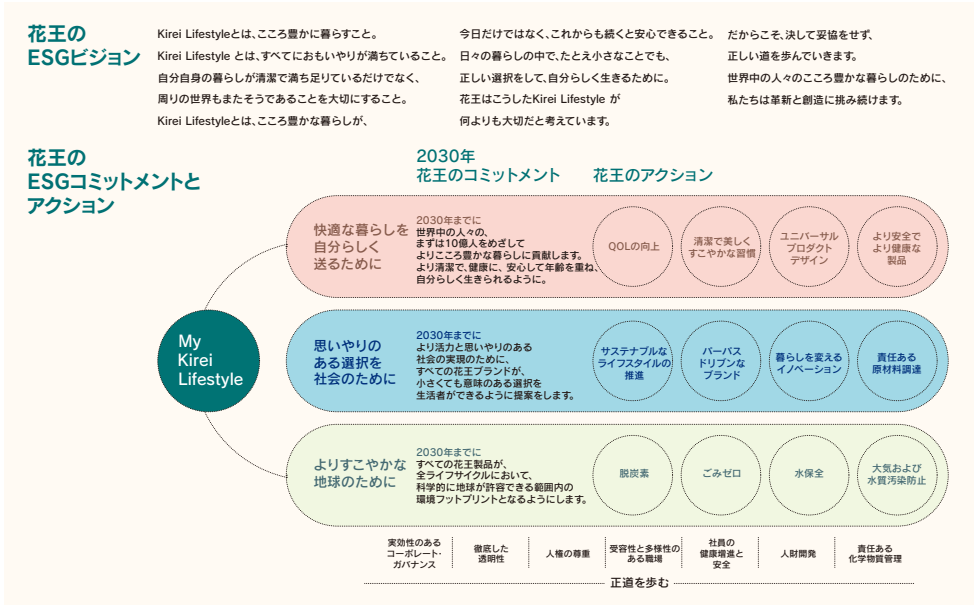
加速させるかたちで対策を進め、生産性を向上させる方針である。また、今後の物流の目指す姿として「Connected Logistics for ESG」を掲げ、メーカー、卸、小売業との共創による物流改革にチャレンジし、サステイナブルなロジスティクスを実現していく。その一環として、経済産業省と国土交通省が主導している2040年のフィジカルインターネット実現のゴールイメージを共有し、強力に活動を推進している。

ここで図表2「フィジカルインターネットが実現する価値」に沿って、具体的に整理してみた。

(1) 効率性^(注3) 世界で最も効率的な物流

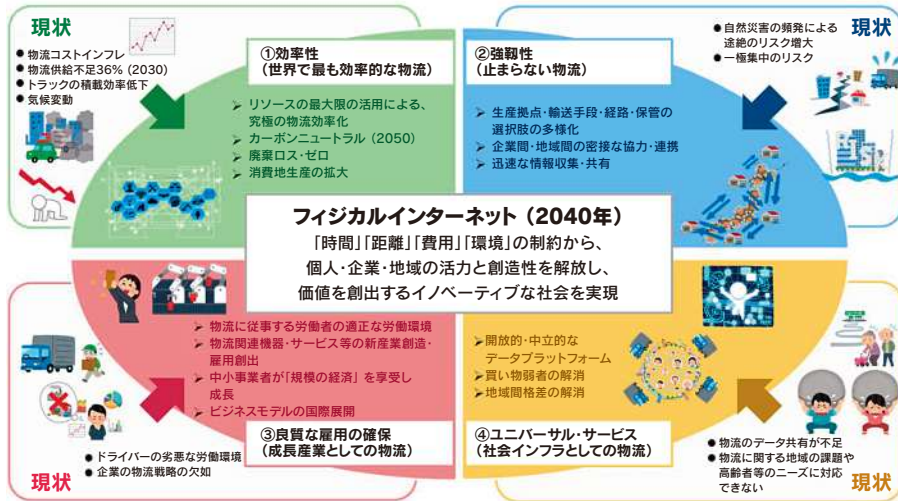
当社は、2019年に「ホワイト物流推進」を宣言した。同宣言のもと、荷主企業や物流事業者と連携して、ドライバーの労働環境の改善やCO₂排出量の削減、廃棄物の削

図表1 花王のESG戦略 — Kirei Lifestyle Plan



出所：花王「花王サステナビリティレポート2023」11ページ
<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2023-all.pdf>

図表2 フィジカルインターネットが実現する価値



出所：「フィジカルインターネット・ロードマップ」(2022年3月、フィジカルインターネット実現会議)

排出量の削減を目指すものである。これによりトラックの空車走行距離を短縮し、従来の輸送方法と比較して両社合計でCO₂排出量の45%、輸送費用の23%の対前年比削減を実現している。今後、ホワイト物流推進を宣言している着荷主企業ともさらに積極的に協働し、取り組みを拡大していく。

(2)強靱性(止まらない物流)
当社は、従来の工場から卸、卸から小売業までのハブ&スポーク型ネットワークを一体化し、工場も出荷拠点と位置付け、受注量や納品までのリードタイムに応じて生産と物流を一体とするフレキシブルな物流モデルの構築を進めている。具体的なモデル拠点として、2023年3月に「豊橋工場次世代倉庫」の稼働を

「スマート物流サービス」に参加し、2020年10月からライオンとの共同輸送を開始している。これは、当社の川崎工場(神奈川県)から坂出ロジステイクスセンター(香川県)ま

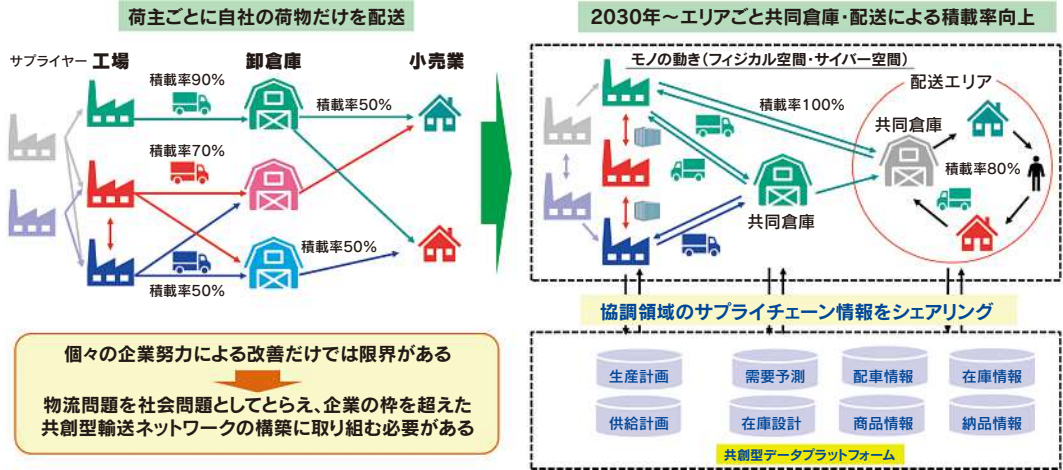
での輸送と、ライオンのライオンケミカル坂出工場(香川県)から加須(埼玉県)・柏(千葉県)・相模原(神奈川県)にある各流通センターへの輸送を結合して往復輸送とし、トラック

減などに、ESG視点で積極的に取り組んでいる。
 具体的には、内閣府が推進している戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の

「スマート物流サービス」に参加し、2020年10月からライオンとの共同輸送を開始している。これは、当社の川崎工場(神奈川県)から坂出ロジステイクスセンター(香川県)ま

での輸送と、ライオンのライオンケミカル坂出工場(香川県)から加須(埼玉県)・柏(千葉県)・相模原(神奈川県)にある各流通センターへの輸送を結合して往復輸送とし、トラック

図表3 フィジカルインターネットへの転換



提供：花王

個々の企業努力による改善だけでは限界がある
物流問題を社会問題としてとらえ、企業の枠を超えた
共創型輸送ネットワークの構築に取り組む必要がある

当社は、企業間の共創による製販配一体型の取り組みをスピード感をもって強力に推進するためには、「デジタル空間でつながる」必要があると考えており、いわゆる業界における物流プラットフォームの実現を目指している(図表3)。現状は「運べなくなる危機」や「物流コストインフレ」など厳しい環境にあり、これを打開するには、積載率を向上させてCO₂排出を削減すべく、企業間で荷物をマッチングすることが重要と考える。また、多くの企業・業界を巻き込むためには、コード体系の標準化やデータの共同利用、搬送容器的標準化、商慣習の改革を進めていく必要がある。そこで、現在、経済産業省が所管し

開始した。この新しい倉庫の出荷ベースの目の前に豊橋ロジスティクスセンターがあるという、製販配(製造・販売・配送)一体型の拠点である。同倉庫のコンセプトは、完全自動化運転へのチャレンジとデータ連携によるオペレーションの効率化である。まず、庫内にはパレット自動倉庫、パレタイズロボット、無人搬送車を導入し、従来であれば30人程度の作業者を必要とした入庫から出荷までのオペレーションを完全自動化した。今後は、出庫ラインからフォークリフトで荷物を取り出し、トラックの荷台に積み込む作業も自動化する計画である。

(3)ユニバーサル・サービス(社会インフラとしての物流)

当社は、生活者起点のもと世界中の人々の持続可能でこころ豊かな暮らしが何よりも大切と考えている。そして、それを実現するために、事業のあらゆる面で革新を進め、さらなる社会への貢献を進める考えである。ロジスティクスにおいても、社会環境の著しい変化に迅速に対応し、人と地球にやさしいサステイナブルな社会を実現していくために、多くの企業を巻き込みながら共創型物流プラットフォームの構築を推進していく。

また、エッセンシャルワークとしてのロジスティクスの重要性を認識し、魅力あるロジスティクスとして社会的価値を高めるため、次世代を担う人財育成に積極的に取り組み、変革できる好機とも考えている。当社は、常にあるべき姿として社会的価値を高め、共有し、共鳴できる多くの人財を巻き込みながら構造改革にチャレンジすることで、サステイナブルな社会の実現に貢献していきたい。

「製・配・販連携協議会」に参画し、そうした議論を進めている。

将来の魅力あるロジスティクスを目指して

当社は、生活者起点のもと世界中の人々の持続可能でこころ豊かな暮らしが何よりも大切と考えている。そして、それを実現するために、事業のあらゆる面で革新を進め、さらなる社会への貢献を進める考えである。ロジスティクスにおいても、社会環境の著しい変化に迅速に対応し、人と地球にやさしいサステイナブルな社会を実現していくために、多くの企業を巻き込みながら共創型物流プラットフォームの構築を推進していく。

(注1) フィジカルインターネット…本誌22ページ参照
(注2) 「フィジカルインターネット・ロードマップ」(2020年3月、フィジカルインターネット実現会議)11ページ・42ページ参照
(注3) ホワイト物流…本誌11ページ(図表2)参照
(注4) 製・配・販連携協議会…本誌24ページ参照